

山門高校Oneヘルスクラブが目指す「ワンヘルスへの道」

福岡県立山門高等学校 Oneヘルスクラブ
堤楓恋 江頭希美 中島悠仁 野田遼介 月足碧 板橋莓子 池末凌隆

ワンヘルスって何ですか？

ワンヘルス = 物と物との「繋がり」の哲学 ⇒ SDGs

2014年からニホンウナギの絶滅を回避するための研究と活動をやってきましたが、その中で全ての物は繋がっているということを強く意識するようになりました。世界に存在する全ての物は繋がっていて、それらが正しく機能すれば、持続可能な世界のしくみが維持されるのです。

ワンヘルスは持続可能な未来を実現します。

全ての繋がりを意識して行動しよう！

ワンヘルスの理念どおりに人を含む全ての生き物、および、それを取り囲む環境が正しく繋がることで全てのものが健全に機能するようになると持続可能な命輝く私たちの将来がもたらされるはずです。

この世界は、あらゆる物が空間的に、時間的に、すべてが繋がっているのです。

ニホンウナギの保護から見えてきた持続可能な未来

飯江川をニホンウナギのサンクチュアリ(保護区)にするために

特定水産物ニホンウナギ(13mm以下)の採捕には特別な許可が必要で

私たちの社会は、“一人ひとり違った多様な人”と“人がつくった物”
および、“自然”でできています。

そして地球には約200万種の生物がおたがいに関係を維持しながらつながり合っています。それを表したのがJT生命誌研究館の生命誌絵巻です。

生命誌絵巻 団まりな
JT生命誌研究館より引用



ここには、生物が共通の祖先から40億年の年月の結果、多様化したようすが描かれています。

福岡県生物多様性戦略(HP)(H25)

飯江川放流ウナギと再捕獲ウナギの体長と重量の比較

私たちが自然
公益財団法人日本鳥類保護連盟

私たちの社会をこれらの多様な生き物たちが支えています。生ゴミを分解してくれる分解者や私たちの飲み水をろ過して蓄えてくれる森林の機能、川の水量を年間を通じて安定させてくれる森林の機能、植物の成長に必要な栄養塩類の生産などの生態系サービスはほとんどが健全な森林が本来持っている機能です。この森林の土壌が形成されるためにトビムシ、ダニ、アリ、ダンゴムシ、ミミズ、菌類、細菌類など多くの生物が関わっています。

清水山の照葉樹林原生林

豊かな土壌の腐植層



森の土壌に多様な生物

私たちが行った最新の研究では、ウナギの稚魚が栄養塩類に強い集合性を持っていることが分かりました。

この発見は、もちろん、ウナギの研究者が悩んでいる大回遊の謎を解く鍵になるばかりか、健全な森林の土壌の腐植層で作られる栄養塩類を求めてウナギ稚魚が川の上流に遡上するのか、その答えも示しているのだと思います。

だとすると、ウナギの絶滅を回避するためにやっている私たちの竹林伐採が大きな意味を持つ取組であることが証明されたことになります。全てが繋がっています。

Oneヘルスクラブの研究と活動の全てがワンヘルスに関わっています！

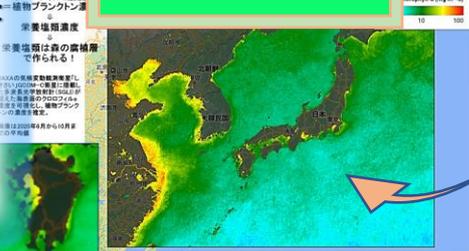
ウナギの飼育で水替えを行わないで良くなったのもワンヘルスの考え通りに古くから防カビ剤(時間軸の繋がり)として使われていたクスノキ(内野樟脳:地域の繋がり)の落葉を利用したからです。

早期にワンヘルスに舵を切った福岡県を世界中が目撃しています！

ウナギの栄養塩に対する集合性の証明に私たちが使った栄養塩類は、ルフランで市内全域から集めた生ゴミを処理したときにできる液肥をろ過して使いました。私たちが出した生ゴミが世紀の大発見に役立っています！これもワンヘルスです。

見えてきた！大回遊の謎

栄養塩を滴下



栄養塩類に集まるウナギ稚魚